

# みやぎ母乳育児をすすめる会

ニュース No.62



2024. 1

# 目 次

## 母乳育児支援の現在地

みやぎ母乳育児をすすめる会 理事長 青葉 達夫 …… 1

## ■ 2023 母乳フォーラム in みやぎに参加して

仙台医療センター 母子医療センター 鈴木 李歩 …… 2

## 母乳育児と母乳育児支援30年

－これまでのこと、そしてこれからのこと－

みやぎ母乳育児をすすめる会 監事 堺 武男 …… 3

## ■ 最近驚いたこと、考えさせられたこと

みやぎ母乳育児をすすめる会 監事 堺 武男 …… 7

## ■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

2023年度 第1回 理事・幹事会議事録 …… 9

## ■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

2023年度 第2回 理事・幹事会議事録 …… 11

## ■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

2023年度 第3回 理事・幹事会議事録 …… 13

## 母乳育児支援の現在地

みやぎ母乳育児をすすめる会 理事長 青葉 達夫

母乳セミナーを行っている団体の代表から来た年賀状に「母乳育児に逆風の時代です」とありました。昨年来、当すすめる会でも母乳率の低下など母乳育児が以前より低調であることが感じられましたが、これは宮城に限ったことではなかったのです。とどのつまり、日本国中どこでも母乳育児支援は苦戦しているようです。

これらは以前からいろいろな議論があって、単独の因子でないことだけはどうも感じていましたが、どうやら医学的と社会的な複数の原因が複雑に絡み合っているようです。ここではその一つ一つがなにかを挙げませんが、問題は広域に渡り、それだけに根は深いようです。

こんなことを言うと怒られそうですが、今一度考えてみました。なぜ母乳育児支援を一生懸命行っているのか？を。

世の中には、万人にむけた支援活動と、特定の人たちに向けた支援活動が存在します。どちらも必要な支援なのですが、対象とする人数が違います。では、われわれは、どちらなんだろう？と考えることがあります。母乳育児支援は子どもがいる親たちが対象です。しかし昨年のフォーラムでも挙がりましたが、それでは第一子にたどり着けない夫婦は対象外なのでしょうか？それとも潜在的な対象者なのでしょうか？そもそもこの少子化では対象は限られてくるものなのでしょうか？

当会にもいろいろなメンバーがありますが、それぞれ母乳育児支援を志した時の気持ちがあると思います。それは何だったのでしょうか？2009年あたりを境に日本の母乳率は低下しています。一時期は国を挙げて母乳育児を支援していました。しかし、民主主義では少数の反対意見がある以上、それらも尊重され、母乳育児支援の勢いはそがれてしまいました。

母乳育児には短期的にも長期授乳にも良い点があふれんばかりです。もちろん初めから良いことばかりでなく、母乳育児が軌道に乗るまでは2か月くらいかかります。それはWHO/ユニセフも堺先生も述べています。それらを我々がうまくいくように支援するわけです。このことを忘れていないわけはありません。

反対意見を尊重しつつも、それでも利益の多い母乳育児支援を推し進めるには、ある程度の精神論が必要になってくるのでしょうか。あるいは利益があるから母乳育児を支援するという損得勘定の考えから考え直したほうが良いのでしょうか？年始早々いろいろなことが起こる2024年の幕開けです。

## 2023 母乳フォーラム in みやぎに参加して

仙台医療センター 母子医療センター 鈴木 李歩

今回の母乳フォーラムは昨年同様ハイブリッド開催でした。コロナの規制も緩和し、現地で実際に先生方から講義を受けられることになったことにまず喜びを感じます。当日は、みやぎ助産師フェスタと重なったこともあり、当日参加が難しい方もおりましたが、アーカイブ配信もあり、先生方の話を多くの方の聞いてもらえることは良かったです。

今回は臨床発達心理士の山口創先生の「子どもの脳は肌にある」というなんとも興味深い題名の講演から始まりました。母と子のスキンシップをとることで生まれる愛着や触れることで分泌されるオキシトシンがもたらす将来への影響など、実際の実験結果を踏まえつつお話してくださいました。オキシトシンが増えるような支援をしていきたいと感じました。


小児科医師の堺先生は、現在の母乳育児の実態についてお話してくださいました。堺先生が役員を務めるみやぎ母乳育児をすすめる会も今年で30周年になります。その中での活動を踏まえた、今後の母乳育児に必要な支援などBFHの一員として知っておくべき内容ばかりのお話でした。30年前と今の母親を取り巻く状況の変化は勉強になりました。

産後ケアハウスママん家の助産師、菊池先生からのお話では、産後ケアとはなにか、その必要性を改めて実感させられました。母子、そして家族を周りがサポートしていくことは大事だと感じました。

最後には、産後だけでなく、続いていく子育て支援の在り方と環境づくりの大切さをNPO法人子育て応援団ゆうわの理事長齋藤先生が教えてくださいました。先生方のお話はとても学びが多く、3時間があっという間に感じました。

今回の講演に参加し、母乳育児の大切さと難しさ、継続していく支援の必要性を再確認できたとともに、母乳育児を支援していくものとして何ができるのか考える機会となりました。参加して良かった、というのが率直な私の感想です。今後も母乳フォーラムは開催されていきますが、来年・再来年と参加者が増え、母乳育児がより推進されることを願っています。



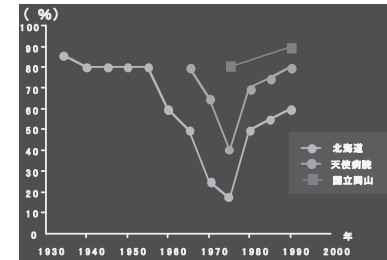


母乳育児と母乳育児支援30年  
—これまでのこと  
そしてこれからのこと—  
堺 武男

### 今から30年前というと

1993年：「宮城県母乳育児をすすめる会」設立  
1994年：第一回「母乳フォーラム in みやぎ」（橋本武夫先生）  
東北大学病院に「周産母子センター」設立  
新生児部門独立  
東北最初の「難病シンポジウム」でこども病院開設  
運動開始を宣言  
1995年：「蔵王・七夕難病キャンプ」開始  
1996年：「宮城県立こども病院」設立署名運動（3か月で20万人）  
（2003.11開院）

### 一ヶ月健診における完全母乳率の推移



1989: WHO & UNICEF  
「母乳育児成功のための10ヶ条」  
1990: UNICEF等  
「母乳育児の奨励と支援に関する  
インテント宣言」  
1991: WHO & UNICEF  
「赤ちゃんに優しい病院運動 (BFHI)」  
1992: WHO & UNICEF, 8月1日を  
「世界母乳の日」,  
この日を「世界母乳週間」と定める  
2018.4 「母乳育児成功のための10ヶ条」  
改定版発表

### 日本母乳の会の活動への参加

日本母乳の会運営委員・理事  
堺 武男:1999~2014年  
2002年：第11回日本母乳育児シンポジウム実行委員長  
  
上原茂樹先生も理事を務め  
2010年：第19回日本母乳育児シンポジウム実行委員長  
  
理事は全国BFHの審査委員も兼務しており、全国のBFH審査を行っていた。

### 赤ちゃんにやさしい病院72施設



### 母乳育児支援活動の内容

母乳率の低い時代であり

- 1) 第一目標は母乳率の向上
- 2) そのために母乳は人工乳よりはるかに優れていることを母親に示す
- 3) 可能な限り完母を勧める
- 4) 産科施設の目標はBFHになること

### 混合栄養から完母へ、121名の検討

・ 初診月齢	授乳回数	人工乳	完母月齢	完母時授乳回数
2.25	9.5	230cc	3.6	9.8

—一ヶ月以内で完母になった例 71例—

・ 初診月齢	授乳回数	人工乳	完母時授乳回数
2.1	8.3	190cc	9.3

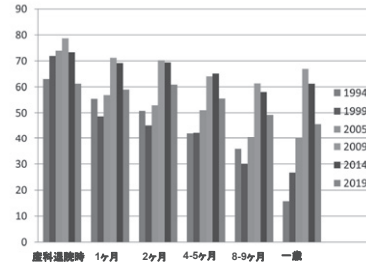
完母に二ヶ月以上を要した例 16例

・ 初診月齢	授乳回数	人工乳	完母時授乳回数
3.4	10.6	445cc	9.9

母子が安心して母乳育児を行うために  
母乳育児を支援する医療者の今後の課題

1. V.Kの低値：「乳児V.K欠乏性出血症」  
K2剤の服用
2. 新生児低血糖：「脳障害の可能性」を最小限にする努力
3. 低出生体重児の栄養：強化母乳→完全人乳栄養を目指す
4. V.Dの低値：「骨性クurl病」  
生活習慣の改善（日光浴、食事）、  
適切なサプリメント
5. 鉄欠乏性貧血：「神経発達への影響」  
検査の普及、鉄剤の服用、鉄なべ、鉄玉の使用
6. CMV対策:今後の課題

97



仙台市の完全母乳率の推移

95

母乳率低下の傾向

宮城県・仙台市の母乳率調査（1994年開始、5年毎に調査）では2009年をpeakとして低下し始め、2019年には明らかな低下を示した。  
その原因について議論があり、高齢出産もその一因とされたが、高齢出産が増え始めた頃も母乳率は上がっており、少子化がその原因と考えられた。  
つまり、少子化＝母乳率低下ではなく、少子化をもたらす育児環境の様々な変化が母乳率低下につながっていると考えられ、母乳育児支援を進める上でこの要因を考えることが重要と思われた。

2019「授乳・離乳の支援ガイド」

生後1カ月でのアンケート

困ったことがある

母乳栄養69.9% 混合栄養88.2% 人工栄養69.8%

困ったことは特にない

母乳栄養30.4% 混合栄養11.2% 人工栄養30.2%

混合栄養の母親に悩みが多いことが示唆された

育児事情の変化 - 1

1. 極端な少子化の進行:
  - 1) 出生数の減少  
1949年: 270万(ベビーブーム)、1975年: 190万、  
1989年特殊出生率=1.57 (出生数124万)  
2000年: 119万、2019年: 86万、2021年: 81万、  
2022年: 77万747人→2021年より40,875人(5%)の減少  
2070年には出生数45万人と予想されている
  - 2) 15歳以下の人口: 11.7% (2021年)  
12~14歳: 323万、0~2歳: 251万
2. 子育て世代の女性(25~44歳)の就業率  
1986年: 57.1%、2012年: 67.7%、2018年: 76.5%
3. 保育園児童  
2017年: 0歳児保育: 14.7万人(5.8%) 1・2歳児保育: 88.5万(34.7%)

94

育児事情の変化 - 2

1. 婚姻数の減少  
2023.1-6月は昨年の同時期の7.3%減
2. 2021年の調査  
結婚したら子供を持つべきだ  
男性55% (2015年の調査より20%の減)  
女性37% (同 30%の減)
3. 育児を行うことが将来の生活の基本的なプランには入ってこない(入れることの出来ない)時代になりつつある  
→「第一子に辿りつけない層」

89

育児事情の変化 - 3

少子化と女性就労率の増加＝専業主婦の減少  
この状況は今後も変わらないと思われる。  
その状況下での母乳育児はどうなるのだろうか？  
母乳率の低い時代は→母乳率の向上を目標とする  
母乳育児はある程度浸透してはいるが職場復帰後の母乳育児、混合栄養の増加など育児事情が多様化している現状では？  
→その中での、母乳育児支援のあり方が問われている

96

育児事情の変化には地域差もある

1. 出生数の減少：東北、四国、鳥取、島根等で著しい
2. 東北地方の中や同じ県の中でも都市部、郡部でも更に事情は異なる  
例えば東北各県と宮城県  
宮城県内では仙台市と仙台市以外では事情が異なってくる  
→画一的な対応や考え方だけでは安心した育児を支援出来なくなっている

## 一応知っておくべき経済的問題

1. 子供の貧困  
「下流社会」三浦天2005、「子どもの貧困」阿部 綾2008、「貧困の戦後史」和田正重2017、「子どもの貧困」渡辺由美子2018、「本当の貧困の話しよう」石井光太2019
2. 育児に関する出費  
育児そのもの、教育（保育園、幼稚園、学校制服、給食、高校授業料、奨学金返済、その他）等々  
「母乳はお金がかからない」は今も通じるだろうか？
3. 「こども手当」は子どものいる家庭にだけ支給される  
実際の支給は2025.2から  
「第一子に辿りつけない層」には何の援助も無い  
(昇給なき30年、最低賃金=時給1000円)

## 母乳育児とその支援に大切なこと 確立と継続 - 1

母乳育児に大切なことは  
母乳育児の確立  
母乳育児の継続  
の両方である  
母乳育児支援はそのどちらも支援出来る  
ことが必要とされる

## 母乳育児に重要なのは確立と継続-2

・・・ initiation and sustaining of exclusive breastfeeding should be based on the AAP-endorsed WHO/UNICEF "Ten Steps to Successful Breastfeedings."  
(AAP, Pediatrics, 129:e827,2012)

完全母乳の確立と継続は、米国小児科学会が支持するWHOとUNICEFの「母乳育児成功のための10ヶ条」を基本とすべきである。(米国小児科学会、2012)

6

## 母乳育児支援に必要なこと-3 職種を越えた母乳育児支援者をめざす

- 現在様々な職種、産科医、助産師、小児科医、看護師、保健師、栄養士などが各々の担当時期と専門分野に従った「支援」を行っています。
- しかしながら、母子はその専門分野とは関係なく育ち、その時間的経過に伴った悩みと不安を抱える様になります。
- 母子が求めているのは児の成長と共に出てくる不安に応え、継続した支援を続けてくれる職種を越えた「母乳育児支援者」です。
- そのためには少なくとも胎児期から新生児期、初乳から卒乳までの赤ちゃんの発達・変化について学ぶことが必要です。

14

## 母乳育児支援者をめざしての活動

「みやぎ母乳育児をすすめる会」の母乳育児支援者をめざした活動

「のびすく」などの育児相談:  
助産師も離乳食、卒乳、職場復帰などの悩みに対応するための知識の共有  
定例会での学習、「初乳から卒乳まで」などの冊子の作成

## 「乳児が入院した際の母乳育児に関する 母親への実態調査」

和田友香他.日本小児科学会雑誌126:1633, 2022

国立成育医療研究センター、PICU、小児病棟入院1歳未満児のうちの母乳と混合育児中の338例について検討

母親が入院中に困ったこと：乳房緊満、乳腺炎、母乳分泌量、入院中の授乳のタイミング、搾乳法と保存法、搾乳器が無い、その他

結論：「母親の悩みの」多くが母乳育児に関する基本的な知識と医療者の丁寧な説明で対応できる内容であった。そのため乳児が入院する病棟のスタッフは乳緊、乳腺炎への対応、搾乳方法、搾母乳の保存期間などの母乳育児に関する基本的な知識を身につけて対応出来るようにしておくことが必要と考えられた。

97

## これからの母乳育児支援の課題

現在は母乳育児がある程度浸透しているがこれまでとは育児事情が著しく異なった時代であると把握される

- 1) 母乳育児率の向上は限界があり、現実性も乏しいかもしれない
- 2) 人工栄養の否定は、増えつつある混合栄養の母親を傷つける可能性があり勧められない
- 3) ある時点までの完全母乳は母乳育児の喜びと楽しみを知ってもらうという位置付けで勧めることは意味あると思われる

→画一的なものから多様性を持った母乳育児支援への変化が求められている

## 今後の母乳育児支援の在り方

1. 母乳そのものは全く変化していません。但し母乳の分析が進むにつれて、支援者には新しく正しい知識の獲得と伝達が常に必要になっています
2. 育児環境の変化を理解し、それに伴う育児のあり方と母乳育児の位置づけ考える必要があります
3. それは完全母乳にこだわらない「可能な範囲での、無理のない母乳育児」を目指すことだと思います。
4. その意味ではこれまでより以上の「多様な支援の在り方」が要求されています。

91

母乳に栄養と免疫が同居している  
ことを私たちは当たり前のことと  
思っています  
実はこれは母乳だけに見られる  
驚くべき奇跡なのです。  
その他のこと、例えば他の病気の予防  
母子関係への影響等も全てそうです。

92

## 母乳育児支援の目標

1. 母乳育児の確立  
確立には2ヶ月が必要である。その間の目標は完母にしたい→母乳育児の喜びを知ってもらう
2. 母乳育児の継続  
少なくとも6ヶ月までの母乳育児（出来れば完母）を勧める
3. 職場復帰、保育園通園後の母乳の継続の支援
4. 母乳の長期効果は量依存性であることを説明し、混合、離乳食中、職場復帰後も可能な限り母乳育児を継続してもらう

## 射乳反射と脂肪濃度、OXTの血中濃度-2

1. 授乳中の射乳反射が起こるたびに母乳中の脂肪含量は増える。  
→母乳中の脂肪含量は乳房から母乳が排出される度合いで決まる  
これは乳腺胞壁に付着している脂肪壁が流れていくため
2. OXT血中濃度はその後も上昇し、完全母乳の母親は出生後15-24週では、2-4週、5-14週より高値を示し、その後も維持される。
3. 混合栄養ではOXT血中濃度は低値となり、新生児期のパルス状の放出も消失してしまう。

15

## 母乳哺育期間の長さとな成人後の知能の関係

Mortensen EL et al. JAMA.287:2365;2002

コペンハーゲンにおける1959.10-1961.12の間に出生した成人の知能指数の調査

母乳哺育期間(月)	-1	2-3	4-6	7-9	>9
WISA Full Scale IQ (n = 973)	99.4	101.7	102.3	106.0	104.0
BPP (n = 2280)	38.0	39.2	39.9	40.1	40.1

9ヶ月以上ではIQに差は出ない。  
→脳の発達に重要な時期の6ヶ月までの母乳栄養が重要であることを示唆している

17

## 母乳育児支援を包含した総合的な 育児支援者へ

育児の目標が母乳育児そのものであった時代は  
母乳育児の優位性を絶対性を持って強調することが育児支援＝母乳育児支援であったと言える

現在の様な複雑な育児環境の時代は  
可能な限りの母乳育児を多様性を持って勧めながら  
育児上の多くの悩みに対してドゥーラの様な寄り添う存在  
となるが必要とされているのかもしれない

## 「寄り添う」「支援」という行為を考える

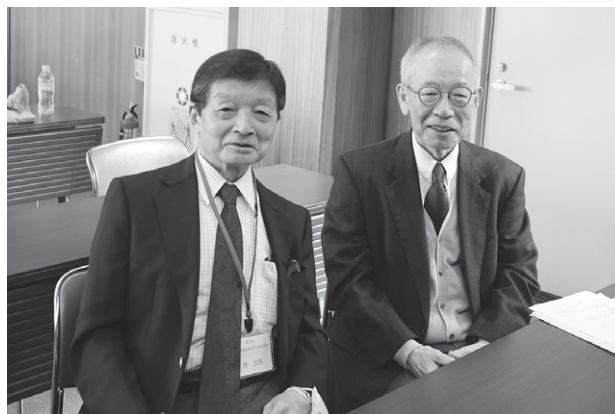
寄り添うとは、寄り添われている側が「寄り添われている」と感じた時に、行為者は初めて寄り添っていると言える。一方的に「寄り添っている」と語っているうちは寄り添ってはいない。

その意味では「無意識・無自覚の行為」なのかもしれない

支援とは「助けてあげる」という上から目線ではないか？

障がい者問題では「共生」が普通になりつつあるが育児に関しては支援で問題ないと思われる

105







## 最近驚いたこと、考えさせられたこと

みやぎ母乳育児をすすめる会 監事 塚 武男

クリニックを閉院した後、週3回、産科に出かけての一か月健診、前のクリニックでの週1回の発達発育外来、その他ボランティアを行いながらの毎日を過ごしています。長い小児科医生活ですが、それでも最近新たに驚くことが多々あります。少しその辺を紹介してみますので皆さんも考えてみてください。

### ■「完母はいや、母乳に縛られたくない」

最近増えているなと思うのは母乳だけで充分と思えるのが、一日1-2回、それも40-60mL位だけミルクを足している母さん方です。その時は体重増加を見ながら、なるべく完母という言葉は使わず「お母さん、母乳だけでも大丈夫だね」と話してみます。以前の私は完母を強く勧め、「ミルクの缶があるから足すんだよね。思い切ってミルクの缶捨てれば完母になるよ」と話したのですが、最近は無理強いせず柔軟に口調で勧めるだけにしています。「パパが俺も授乳したいというので、一回位哺乳瓶でミルクをやっています」というお母さんはこれまでも結構いましたが、父親の育児が増えた影響もあるのかそれも以前より少し増えてはいる様です。

ある日の健診で、矢張り母乳10-12回、ミルク1回50mL位の補足で、体重は一日45-50gの増加がある母子を診ました。そこで私は「母乳だけで大丈夫じゃない」と話しかけました。「母乳だけでいけますかね」「そうだね」のやり取り、そこまでは別に問題ないのですが、がその次の言葉は「私完母って嫌なんです」と来たので「え、なんで」と問い返すと「完母って母乳に縛られて自由がないじゃないですか。一回でもミルク足してるとほっとするんです」というお返事。へー、そうなんだ。母乳やっていて母乳に縛られるというのは初めて聞いた様な気がします。みなさんはどうですか？

### ■「こども禁止のアパート」

東京にお住まいで里帰り分娩のお母さん。こちらは完母でOK。「東京にはいつお帰りですか？」「まだ決めていないんです」、「2ヶ月から予防接種が始まるので忘れないで下さいね」、「はい、でも引っ越し先が決まらなくて」、「新しいところに引っ越すんですね」。そこまでは良かったが次の言葉が衝撃。「今のアパート、こども禁止なんです」、「えっ、何ですってこども禁止！」「はい、うるさいからということで。それで引っ越さなければならぬんです」。ちなみに住所は東京都江戸川区で、アパートは常に満室とのこと。ペット駄目というアパート、マンションはよく聞きますが、子ども駄目は初めての経験。少子化が大変な状況にある現在、子どもが閉め出される社会が少しずつ作られていくのでしょうか。長野県で子どもがうるさいということで公園が移転したという話があったのも、記憶に新しいこと。

どうなるのでしょうか、これからのこの国。本当にどうなるのでしょうか。

## ■「マグカップストローなら母乳をやってもいい」

フォーラムのアンケートにも記載されていましたが、3人のお子さんのお母さん。私は一番上のお姉ちゃんから診させて頂いており、皆さん母乳で育てています。お母さんのお仕事の都合で1歳半になる3番めのお子さんを保育園に預けると、そこの保育士さんから「母乳なんてやめて下さい。まして直母なんて何考えているの。マグカップストローでやるならあげても仕方ないけど」と言われショックだったと。母乳をわざわざマグカップストローで飲ませなさいとは、どういうことでしょうか。お子さんを預かる立場の、保育園の保育士さんが、何を考えているのでしょうか。

頭がくらくらすることが、世の中では平気で行われているのですね。

自分が関わる範囲で、周囲を少しずつでも変えて行くしかないのかなと考える今日この頃です。

## 2023年度 第1回 理事・幹事会議事録

日 時：2023年9月4日(月) 18:30~19:30 於：Zoom

出席者：理事長：青葉 副理事長：中村 事務局：熊谷（書記）

理 事：洞口、安井、大友、藤本、飯田、菊池、佐藤(祥)

監 事：堺

幹 事：近江

オブザーバー：高橋(有)、由利、氏家、菅野

### 議題

#### 1. フォーラムについて（役割分担、予算案）

広報について：産科施設に郵送作業中。

個人のSNSなどでも情報拡散をお願いしたい。

申し込み状況：アーカイブの参加が多い。

役 割 分 担：大槻先生が総会の議事（事業報告、事業案）の読み上げはOK。

山口先生の担当について、中村副理事長に1～2名追加。

花 束：梅子さんは参加が不確実。表彰されたことについてのアナウンスの形にする。

懇 親 会：コロナ感染の状況が厳しくなっている。所属施設での会合も再開していない状況

なので、Peatixではなく、MLでの個人参加を募るという形にする。

森のパークで4,000円/人で企画しているが、9月半ばまで保留。

予算について：業者について

見積もりは去年のBHは約18万、雅プロ約8万で出ている。

雅プロに依頼する方向だが初めての業者でもあり、現地の確認をしながら、話してみる。担当：青葉、(武石)、熊谷

当日のZoomについて：ミーティングにするかウェビナーにするか。

ウェビナーの場合、質問を運営側が代読する形になる。

現地参加と金額が同じであれば、Zoomミーティングでも良いか。

Zoomの勉強会の開催に慣れている武石さんの意見も聞いてみる。

#### 2. 総会について（議案書確認）

「母乳率実態調査」の言葉の確認。過去のものと同合わせる。

フォーラム以外のイベントについて。定例会については知識の共有が必要と考えられた時に随時行う。

### 3. HPについて (WGについて)

そろそろ契約見直しの時期。HPの閲覧状況や他のSNSと繋ぐなどのことも含めて、WGのメンバーなどについても考えてみる方向で。担当：中村理事？

### 4. WSについて (担当者、時期)

助産師の情報交換という面もあったが、参加者が減っている現状。例年2月頃に行っていたが、2024年の2月については一旦休止。

### 5. 会の今後について (活動の方向性、名称変更)

イベント：何を目的にしてイベントをするのかをまず明確にする。

定例会については、母乳育児の継続の視点で、のびすくでの相談時に母の質問に答えきれないことがあり、医療的知識の共有をする、というのが開始の目的だった。のびすくの相談がなくなっている現状もあるので、トピックスが出た時に勉強会を開催する、という形にする。

いずれにしても各種イベントについては、会の活動方針を考えてから。フォーラム終了後、MLで意見を募っていく (2024年8月末日までを目指す)。

会の名称変更：まずは活動方針を考える。名称変更についてはそれから。

### 6. その他

次回 第6回理事会・幹事会：2023年10月2日 (月) 18:30～ (Zoom)

日 時：2023年10月2日(月) 18:30~19:00 於：Zoom

出席者：理事長：青葉 副理事長：中村 事務局：熊谷

理 事：洞口、加藤、飯田、藤本

監 事：堺

幹 事：千葉、近江、渡邊

オブザーバー：若澤、山田（書記）

## 議題

### 1. フォーラムについて（進捗報告） 洞口理事

- 1) 申し込み状況：現地12名 Zoom13名 アーカイブ27名
- 2) 広報について：とくに地元の申し込みが少ない状況であることから、地元を中心にした更なる呼びかけを依頼された。
- 3) 役割分担：9月に提示した通りであることを確認した。
- 4) 講師控室：3階（12人入れる部屋）に予約済み。
- 5) 講師対応：中村副理事長・藤本理事
- 6) 垂れ幕：ポスターの内容に基づき歯科医師会館に依頼することを確認した。
- 7) 懇親会：森のパークで4,000円/人の予定であることが報告された。
  - ・コロナ感染状況などから現在の申し込みは13名。
  - ・90分飲み放題。
  - ・指定発言の2名の参加費は会から支出することを確認した。出欠の確認を今後行う予定（担当：事務局）。
- 8) 配信業者について：雅プロに依頼予定であることが確認された。
- 9) 集合時間：12:00 時間厳守。
- 10) 駐車場について：地下駐車場が使用可能。販売用の本を持ち込むことを確認した。
- 11) 現地での本の販売：現地参加の方のみ会員・非会員ともに特価1,000円とすることを確認した。

### 2. 総会について 事務局：熊谷

- ・議案書等を発送したことが報告された。
- ・当日欠席する場合には必ず委任状を提出するよう、施設内での呼びかけを依頼。
- ・30周年記念のセレモニーについて検討した結果、特別イベントは行わず、フォーラムで30周年であることを宣言することになった。

**3. 忘年会について** 青葉理事長

対面で12月4日（月）に開催する予定であることが報告された。場所は未定。

**4. その他** 青葉理事長

今年度のワークショップは中止であることを確認した。

次回 第3回理事会・幹事会：2023年12月4日（月）18：30～（対面）

## 2023年度 第3回 理事・幹事会議事録

日 時：2023年12月4日(月) 18:30～ 於：夜ノ焼魚ちょーちょむすび

出席者：理事長：青葉 副理事長：中村 事務局：熊谷（書記）

理 事：飯田、大友、加藤、山本

監 事：堺

幹 事：芳賀

オブザーバー：武石

### 議題

#### 1. フォーラムの反省

参加者アンケートの結果、開催報告、お手伝いの方へのアンケート、担当の洞口さんからの報告は、11月17日にML経由にて送付済み。

\*参加者アンケート結果のまとめは後日  
会計報告は別紙のとおり。

#### 2. ニュースについて

##### 【スケジュール】

1月5日まで大友さんへ直接入稿。

校正2回、その後、1月30日当会HP（メールでお知らせ）にて公開予定。

##### 【担 当】

巻頭言：青葉先生

母乳育児奮闘記：堺先生

フォーラムの報告：仙台医療センターの方

フォーラムのPPT：堺先生

フォーラム写真：大友さん

臨時総会の結果報告：事務局

理事会議事録：事務局

#### 3. 今後の会の運営や会計について

まずは宮城県の母乳育児を支援する方向で。

具体策：

- ・ワークショップなど支援者同士の意見交換の機会を作っていく。
- ・アドバンス助産師などの申請単位としても使えるようなコンテンツを提供する。
- ・助成金などの資金についても更に探していく。
- ・お母さんにフォーカスして、講座を企画するなど考えてみたらどうか？

#### 4. その他

修正予算案についての臨時総会は12月10日まで承認／不承認、その他ご意見を収集中。

→承認41名、非承認1名。正会員79名の半数以上の承認を頂きました。ご協力ありがとうございました。

#### 会計予算案について

問1：承認しない場合、その理由を教えてくださいか？

- ・承認したくない予算案ですが、承認しないと活動できないので承認します。
- ・現在、ニュースレターを会員へ送付しておられるかと思いますが、通信費が安すぎませんか。前回から何を削減し、どのような事業計画で進めていて、今年度既にどの程度使用しているのかを踏まえて実現可能な予算案であるとの説明が欲しいです。またWeb管理費についても内訳について説明を希望します。

→WEB管理費明細は以下の通りです。

サーバ管理費：5,000円/月、WEB更新管理費用11,500円/月

ドメイン管理費：年に1回、10,000円

問2：その他、当会についてのご意見があれば教えてくださいか？

- ・書籍販売が、収入の予算にのっており、無理な会計かと。検討をお願いします。
- ・WEB管理費が会費より多い事が問題だと思います。毎年度赤字補填をするようではこの先が危ないと感じます。改善策を検討して欲しいです。
- ・この会は母乳育児をしたいと思っている母と家族をサポートすること、子どもの母乳を飲む権利を守ることに役立つために存在しているのではないのでしょうか。それを会の名称から「母乳」という言葉を無くそうなどという議論をしようとしていることに強烈な違和感を感じます。また会の運営が個人のポケットマネーで賄われるようなことは避けた方がよいと思います。ニュースレターをWebにする（紙かどうかの希望を聞くでもよいと思いますが）などできる削減はして、健全な運営の努力が必要だと思います。この会が続くことを心から願っています。
- ・理事会、事務局の方々 ありがとうございます。予算がキツキツですので、その中でどの様な活動をするか、難しいと思います。

#### みやぎ母乳育児をすすめる会の臨時総会について

昨年度の総会で否決された令和5年度の予算案ですが、定款に基づき、12月10日に臨時総会を招集し、予算案の修正案を電磁的方法で審議し、正会員の半数以上の承認を頂き可決したことをご報告いたします。

理事長 青葉 達夫

次回 第4回理事会・幹事会：2024年2月6日（月）18：30～（Zoom）



住所や勤務先、お名前が変わった方、退会を希望される方は事務局までお知らせください。また、当会では情報伝達を確実かつ迅速に行い、経費を削減して皆様へ還元するため、連絡手段やニュースレターのデジタル化を進めております。メールアドレスをお知らせ頂いていない方、メールでのお知らせが届いていない方は、事務局までお知らせください。当会宛にメールでお名前・ご所属・職種をお知らせ頂くか、会費納入時に振込用紙へ記載をお願いします。どうぞよろしくお願いいたします。

**連絡先**

事務局：東北公済病院 母子センター

住 所：〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-3-11

E-mail：m.bonyu@gmail.com

**特定非営利活動法人 みやぎ母乳育児をすすめる会**  
**理事長：青葉 達夫**  
**事務局：東北公済病院7階 母子センター**  
**e-mail:m.bonyu@gmail.com**